

子宮頸がん等、 3種類のワクチン 無料接種が始まりました。



横浜市議員

仁田まさとし

- 環境創造・資源循環委員会委員
- 国際文化都市特別委員会委員
- 公明党横浜市会議員団長
- 施政方針は「大胆に挑戦、誠実に実現」

<http://www.nitta-m.jp/>

■**ワクチン接種の有効性**
子宮頸がんは、年間1万5千人以上の女性が発症し、35000人を超える大切な命が失われていきます。しかし、原因であるウイルスの感染を予防するワクチンの接種と定期的な検診により予防が可能です。

また、日本で毎年1000人近い子どもたちが発症する細菌性髄膜炎の原因となる細菌が、ヒブ(60%)と肺炎球菌(30%)です。ヒブと肺炎球菌は、免疫力のない乳幼児の鼻やのどから容易に感染し、重症感染症を引き起こします。そのワクチン

の接種が、乳幼児の髄膜炎などの感染症に対して予防効果があります。

■公明党の取組

公明党は、これらのワクチン接種について、国が適切な接種年齢や実施方法等を示し、公費助成を含め全国どこでも接種を受けやすい環境を整備する必要がありますと訴えてきました。また、公明党横浜市議団は、本会議・各委員会などの議論を通じて、接種費用の負担軽減など強く要望してきました。

昨年末、国において補正予算が成立し、子宮頸がん等の新たな3種類のワクチン接種の事業方針が示されました。

ワクチン	対象年齢(横浜市民)	接種回数	予防効果が期待される主な病気
子宮頸がん予防ワクチン	中1～高1相当の女子	3回	子宮頸がん
ヒブワクチン	生後2カ月～5歳未満	4回～1回	細菌性髄膜炎 こぶ頭がいがい 肺炎
小児用肺炎球菌ワクチン	生後2カ月～5歳未満	4回～1回	細菌性髄膜炎 肺炎・中耳炎

- 横浜市保健所 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hokenjo/>
- 横浜市ワクチン相談窓口 TEL: 045-671-4183 FAX: 045-664-7296

めま。①子宮頸がんワクチン、②ヒブワクチン、③小児用肺炎球菌ワクチンを市内在住の対象年齢の方に接種します。

ワクチン接種事業は、市と契約した協力医療機関のみで行われます。詳しくは保健所ホームページと「ワクチン相談窓口」等でご確認ください。